

研修医通信 Vol.105

紀南病院での1ヶ月は想像していた以上に刺激的で、多くの貴重な経験をさせて頂きました。救急外来や内科初診外来での診察から、入院加療および退院に至るまでの診療を経験させて頂くなかで、指導医の渡邊先生と相談しながら検査や治療を行い、内科における入院患者の管理の難しさを学びました。また、ひとりの患者の退院やその後の生活は、医師や看護師だけでなく、MSW やケアマネージャー、退院先となる施設や病院スタッフといった多くの職種が関わり連携していることで成り立っていくことも痛感致しました。

ふるさと訪問や神川診療所、紀和診療所での研修などで地域を更に知る機会も数多くありました。診療所研修では先生や看護師の方々が地域住民と良好な関係を築きながら診療を行っていることが特に印象に残りました。また、ストレッチや外用薬の使い方など実践しながらアドバイスされており、病気だけでなく患者の生活背景や理解度に応じた医療が提供されている診療所の地域住民にとっての重要性を再認識しました。研修中に地域の方々とお話の中で、その思いに触れると同時に、日常生活で感じる不便さや地域の良さ、さらには地域の見所に至るまで多くのことを教えていただきました。休日や当直明けには先生方や地域の方々に教えていただいた各所を訪れ、雄大な自然と豊かな食に感動しながら毎日を過ごすことができました。

今回学び感じたことや経験を活かして、今後も地元である三重県で地域医療に貢献していきたいよう精進していきます。1ヶ月間本当にありがとうございました。

伊勢赤十字病院 初期研修医2年目 植木彩加



一ヶ月という短い間ですが、紀南病院で地域研修をさせて頂きました。私はこれまで専門性の高い急性期病院で研修しており、専門外のことは簡単に他科にコンサルトできることのできる環境の下での研修をしていました。紀南病院は専門的な検査や治療が行える人手や施設が十分ではありませんが、幅広い知識と高い臨床のスキルをもった内科の先生方がカンファレンスを通じて知識を共有しあい、患者の背景や考え方を尊重しながら最適な医療を提供し、必要に応じて専門的な病院へ紹介している医療を目の当たりにしました。医療資源の限られた地域で、それぞれの病院が役割を果たし、急性期病院と連携を図る医療を通じて、人を診るだけでなく、地域を診る医療の大切さを身に染みて感じ、今までとは違う医療の側面を知ることができました。

また地域訪問、紀和診療所・神川診療所の外来診察や訪問診察など地域研修ならではの研修をさせて頂きました。生活指導や内服薬の調節により予防的に診察し、重篤な疾患にならないようにする地域の役目を果たしている取り組みをみることができました。

地域研修を学んだことをこれからの医療に生かしていければと考えています。多大なご指導をいただいた池田先生をはじめとする先生方、お世話になったスタッフのみなさま、ありがとうございました。

伊勢赤十字病院 初期研修医2年目 山崎俊樹

